

忘れられない味

第三十六回

宇津木妙子

(元ソフトボール日本代表監督)

「涙ながらに食べたカレーライス」

学生の時、私が所属していたソフトボール部が関東大会へ出発する前日、練習中にトラブルがあつて、私たちは顧問の先生からひどく叱られました。

落ち込みながら合宿所の食堂に行くと、夕食はカレーライス。

涙を流しながら食べた後、気持ちを切り替え、

心をひとつにした私たちは、夜遅くまで練習を続けました。

こうして、奮起した私たちは関東大会で優勝し、

団体に出場することができました。

振り返ると、合宿で叱られた日の夕食は、いつもカレーライスでした。

食事はマネージャーが何日も前からメニューを決め、材料を準備してつくりまします。

ですから、偶然のはずなのですが、監督から叱られたり、先輩から説教されたりして、

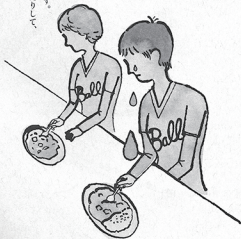
「今日は本当にしんどかったなあ。食事なんてのを通らないよ」

と思つた日に限つて、カレーのにおいが漂ってくるのです。

みんなで落ち込み、悔し涙を流しながらカレーライスを食べる様子を、

通りがかりに見た他の部の顧問の先生からは、

よく「ソフトボール部のカレーライスは、涙が出るほどおいしいのか?」と、からかわれていました(笑)。



ソフトボール部は、文化祭の屋台でもカレライスを担当しました。

具材は、定番の豚肉、玉ねぎ、にんじん、じゃがいもの他に、なすやかぼちゃも入れて、2日間じっくり煮込みます。私たちのカレライスは一番人気でしたが、つくることに一生懸命になり過ぎて練習がおろそかになってしまい、

またまた先生に叱られてしまいました。

このように、私にとって叱られることとカレライスは、いつもセットの思い出になっています。

それでもカレライスは好きなメニューのひとつです。

大人になってからも、体が疲れていたたり、イライラしていると食べたくなります。

自分で、あるいは家族がつくったカレライスをフリー言いなから食べていると、高校時代を思い出します。

そして、「あの頃ががんばったから、今があるんだ」と言い聞かせて、明日への活力をもらっています。

高校時代のソフトボール部の仲間と会うと、

今でも合宿の時のカレライスの話で盛り上がりします。

当時のマネージャーに「あんたがカレライスをつくるから叱られるんだよ!」と

冗談を飛ばして、笑い合っています。

カレライスは、色々な具材とルウが調和して、完成します。

そして煮込むほどおいしくなる。

それは、ソフトボールのチームと一緒だと思います。

チームも色んな選手がいて、ひとつの目標に向かって力を合わせていく。

選手には個性が必要ですが、ただ強だけではダメで、

時にはチームのために個性を犠牲にして調和することも必要です。

選手の個性がぶつかり合って、活かし合って、チームは完成する――。

そんな風に思いを巡らすと、カレライスとスポーツのチームってよく似ているなと感じます。(談)



うつせ・たま。

1990年3月、埼玉生まれ。エニチカでソフトボール部で活躍。8年、9年に現役引退後は自ら監督(現・エニチカカマウ高校)監督。97年に日本代表監督に就任。2000年のシドニー五輪で監督メダル、04年のアテネ五輪では銅メダルを獲得した。現在は、強豪ソフトボール強豪国米などの指導に打ち込み、20年の東京五輪に野球とソフトボールの競技監督を目指して尽力している。好きな食べ物は、カレライスととうもろこし。

